

平成24年度 農業農村整備事業等補助事業評価（事後評価）

【地区概要説明資料】

- 1 経営体育成基盤整備事業「妹背牛6区地区」・・・・・・・・・・ 1
- 2 畑地帯総合整備事業「第2南部地区」・・・・・・・・・・ 13
- 3 農道整備事業「片無去地区」・・・・・・・・・・ 23
- 4 畜産環境総合整備事業「光進地区」・・・・・・・・・・ 33

平成 24 年度 補助事業評価（事後評価）

経営体育成基盤整備事業

もせうし く
妹背牛 6 区地区

【基礎資料】

平成 25 年 2 月

農村振興局 整備部 農地資源課

経営体育成基盤整備事業「妹背牛6区地区」の概要

○地区概要

事業名 : 経営体育成基盤整備事業

総事業費 : 1,739 百万円

受益面積 : 218.0ha

受益者数 : 38 戸

工期 : 平成 12 年度～平成 18 年度

関係市町村 : 北海道雨竜郡妹背牛町

主要工事 : 区画整理 194.7ha

整地工 190.3ha

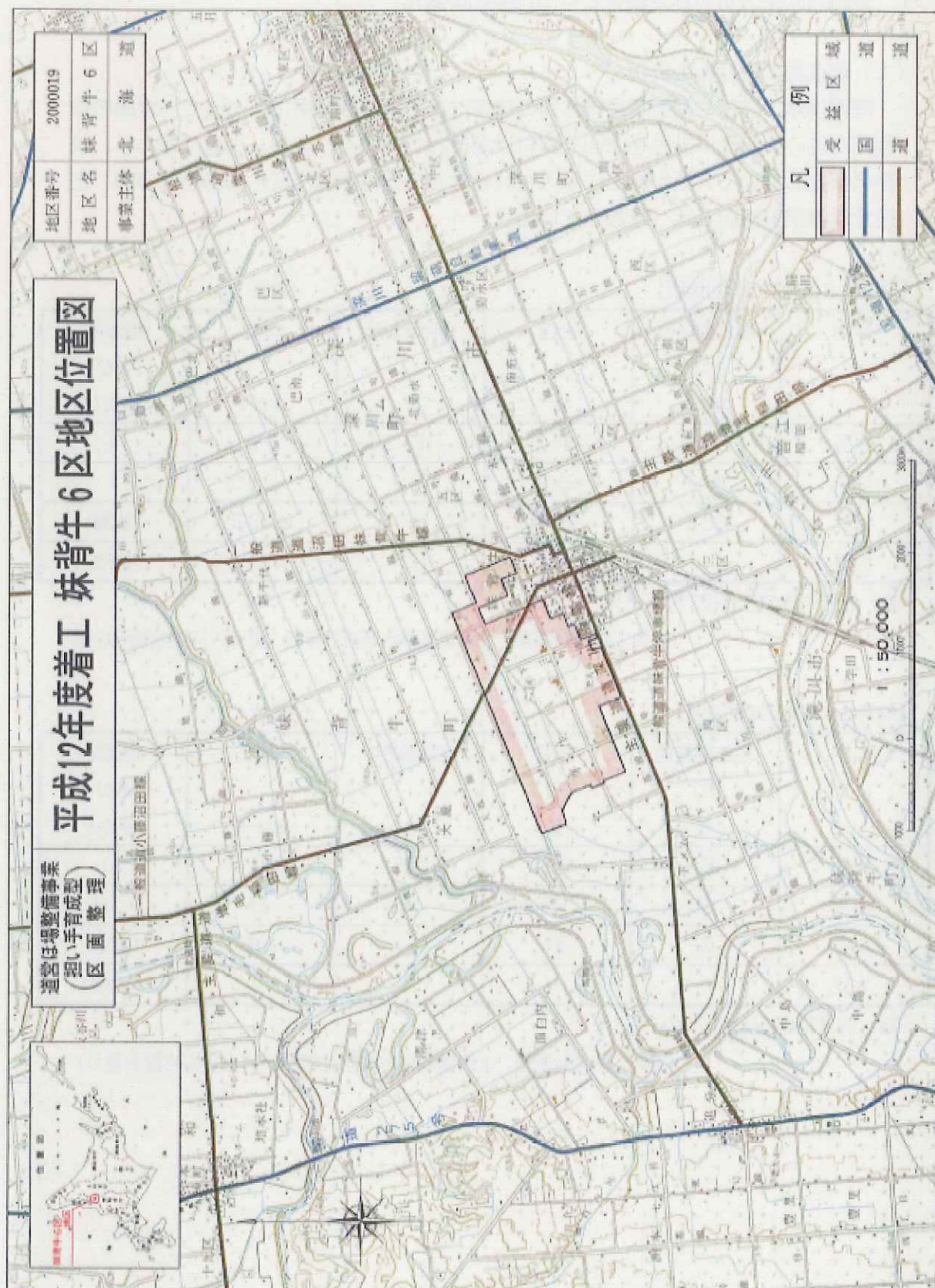
用水路 12.2km

排水路 8.7km

暗渠排水 167.5ha

農道 23.3km

用水路 3.2km



1 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農産物の生産量の変化

暗渠排水の整備や農業用排水路の改修による水田の汎用化によって、水田の畑利用が進み、小麦は計画を上回る作付けが行われている。また、小豆に替わり、収益の安定している大豆が新たに導入されるなどの作付面積に変化はあるものの、生産量は事業実施前と比べ増加している。

【妹背牛6区地区の作付面積】

(単位：ha)

作物	事業実施前 H11 a	計画 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
水稻	153.2	164.1	159.2	6.0	4
小麦	36.7	26.9	39.1	2.4	7
小豆	31.8	21.9	—	△31.8	皆減
大豆	—	—	12.7	12.7	皆増

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：事業計画書、北海道農林水産統計年報、JA 北いぶき聞き取り)

【妹背牛6区地区の生産量】

(単位：t)

作物	事業実施前 H11 a	計画 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
水稻	838	953	925	87	10
小麦	140	118	170	30	21
小豆	68	54	—	△68	皆減
大豆	—	—	33	33	皆増

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：事業計画書、北海道農林水産統計年報、JA 北いぶき聞き取り)

【妹背牛6区地区の生産額】

(単位：百万円)

作物	事業実施前 H11 a	計画 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
水稻	158	180	173	15	9
小麦	23	19	27	4	17
小豆	22	17	—	△22	皆減
大豆	—	—	8	8	皆増

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：事業計画書、北海道農林水産統計年報、JA 北いぶき聞き取り)

(2) 営農経費の節減

水田の汎用化により、稲作では耕起・収穫時、畑作では降雨後などにほ場の地下水位を迅速に低下させ農業機械の走行に必要な地耐力が確保できることから、大型農業用機械の導入や適期作業の実施が可能となり、水稻と小麦では計画を上回る作業効率の向上が図られている。

また、事業実施前は、農業用用水路の老朽化により、毎年維持管理費が増嵩する状況であったが、事業においてパイプライン化を実施したことによって維持管理費が節減されている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

作物	事業実施前 H11 a	計画 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
水稻	200.1	169.8	147.6	△52.5	△26.2
小麦	20.3	12.9	12.5	△7.8	△38.4
小豆	60.9	48.1	—	—	—
大豆	—	—	50.7	—	—

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：事業計画書、妹背牛町聞き取り)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

作物	事業実施前 H11 a	計画 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
水稻	508	340	251	△168	△33
小麦	180	103	104	△77	△43
小豆	140	96	—	—	—
大豆	—	—	117	—	—

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：事業計画書、妹背牛町聞き取り)

(維持管理費の動向)

(単位：千円)

工種	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
用水路	57,720	1,993	△55,727	△97
排水路	21,447	775	△20,672	△96

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：深川土地改良区聞きとり)

妹背牛6区地区の営農状況



水稻・小麦の作付け状況



水稻の防除状況

2 事業効果の発現状況

(1) 農業構造の改善

① 農家数の変動

妹背牛6区地区の農家数は事業着手時点では40戸の農家が個別経営を行っていたが、農業生産法人に集約が進み、農家戸数が減少している。

【妹背牛町の専兼別農家数】

(単位：戸)

区分	事業着手時 H12 a	完了時点 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
専業農家	82	106	130	48	59
兼業農家	258	172	99	△159	△62
第1種兼業農家	234	159	85	△149	△64
第2種兼業農家	24	13	14	△10	△42
合計	340	278	229	△111	△33

注1) 世界農(林)業セクタ (事業着手時:2000年、完了時点:2005年、評価:2010年)における数値

【妹背牛6区地区の専兼別農家数】

(単位：戸)

区分	事業着手時 H12 a	完了時点 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
専業農家	37	35	20	△17	△46
兼業農家	3	3	1	△2	△67
第1種兼業農家	3	3	1	△2	△67
第2種兼業農家	-	-	-	-	-
合計	40	38	21	△19	△48

注) 評価時点の値はH23のデータ

(出典：妹背牛町調べ)

② 経営規模別農家数の変動

本事業の実施により、ほ場区画が整形されたことに伴い大型農業機械の導入による作業効率の向上が図られたことから、妹背牛6区地区では大規模面積を有する農家が増加している。

【妹背牛6区地区の経営規模農家戸数】

(単位：戸)

区分	事業着手時 H12 a	完了時点 b	評価時点 c	増減 d=c-a	増減率 (%) e=d/a
3.0ha未満	16	20	2	△14	△88
3.0ha～5.0ha	6	2	－	△6	皆減
5.0ha～10.0ha	9	7	2	△7	△78
10.0ha～20.0ha	9	8	12	3	33
20.0ha以上	－	1	5	5	皆増
合計	40	38	21	△19	

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：妹背牛町調べ)

(2) 担い手の育成

地区内の農業者数の減少に伴い、認定農業者の数が減少しているものの、地区内の農業者全員が認定農業者となっている。

【認定農業者数】

〈妹背牛町〉

(単位：人)

区分	事業着手時 H12	評価時点	増減	増減率 (%)
認定農業者数	125	229	96	77

注) 評価時点の値はH22のデータ。

(出典：北海道調べ)

〈妹背牛6区地区〉

(単位：人)

区分	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
認定農業者数	21	18	△3	△14

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：妹背牛町、深川土地改良区聞きとり)

【農業生産法人数】

〈妹背牛町〉

(単位：法人)

区分	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
農業生産法人数	2	4	2	100

注) 評価時点の値は H23 のデータ。

(出典：妹背牛町、深川土地改良区聞きとり)

【妹背牛6区地区】

(単位：法人)

区分	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
農業生産法人数	-	1	1	皆増

注) 評価時点の値は H23 のデータ。

(出典：妹背牛町、深川土地改良区聞きとり)

(3) 担い手への農地の利用集積の推進

妹背牛町、農業委員会、農協、土地改良区による協議会を開催し、高齢化及び担い手不足農家を対象に流動化対策農地の有無を聴き取り、担い手を対象に経営規模拡大の意向を聴き取り、集積農地の団地化が図られるよう調整が行われている。

時点	地区 面積 A	所有面積		賃貸借設定面 積		基幹3作業 委託面積		合計			集積率 H/A
		地区 内	地区 外	地区 内	地区 外	地区 内	地区 外	地区内 H	地区外	計	
事業実施前 a	231.7	37.5		22.8				60.3		60.3	26.1
計画 b	218.0	95.4		1.0				96.4		96.4	44.2
増加率 (b/a)-1)*100										59.9	
実績(評価時点) c	218.0	217.0		1.0				218.0		218.0	100.0
増加率 (c/a)-1)*100										261.5	

注) 評価時点の値は H23 のデータ。

(出典：妹背牛町、深川土地改良区調べ)

(4) その他特記すべき事項

① コスト縮減の取組

区画整理の整地工において、反転均平工法の導入によりコスト縮減が図られている。

② 整備後の営農等の状況

事業実施前のほ場の平均区画は 0.4ha 程度であったが事業により 2.4ha 程度まで区画を拡大したほか、ターン農道の導入、農業用水施設のパイプライン化により、農作業効率の向上や維持管理費の低減が図られている。

また、暗きょ排水（地下かんがい対応タイプ）の整備により直播栽培への取組も行われている。

さらに、事業を契機に安全で安心な農業に対する機運が高まり、減農薬への取組として植栽されているハーブ（アップルミント）を利用したハーブ焼酎を開発するなど地域特産品創出の取組が行われている。

③ 農業生産法人の設立

事業実施前は個別経営を行っていたが、大区画化等による農作業の効率化が図られた事を契機に、地区内に農業生産法人が設立され、本法人も含めた担い手による営農が展開されている。

④ 安心・安全な農業への取組

事業を契機に、地域の安心、安全な農業への取り組みの機運が一層の高まりを見せ、畦畔・農道へハーブを植栽し、病害虫（カメムシ等）から水稻を守り、減農薬に努めクリーン農業の推進を図っている。

3 事業により整備された施設の管理状況

用排水施設は深川土地改良区が適切に管理している。

4 社会経済情勢の変化

(1) 社会情勢の変化

① 産業別生産額

農業産出額は事業実施前と比べて増加しており、商業及び製造業の生産額は計画時点と比べて減少している。

【妹背牛町の産業別生産額】

(単位：百万円)

区分	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
農業	3,635	3,870	235	6
商業	6,522	5,284	△1,238	△19
製造業	495	430	△65	△13

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：北海道市町村勢要覧)

②産業別 15 歳以上就業者数

妹背牛町の産業別 15 歳以上就業者数は、農業就業者の減少率では事業実施前から事後評価時点では 15% の減少となっており、総数に占める減少率より大きくなっている。

【妹背牛町の産業別 15 歳以上の就業者数】

(単位：人)

産業名	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
農業	763	652	△111	△15
林業	2		△2	皆減
漁業				
鉱業	13	1	△12	△92
建設業	286	244	△42	△15
製造業	239	213	△26	△11
電気・ガス・熱供給・水道業	8	7	△1	△13
運輸・通信業	79	52	△27	△34
卸売・小売業・飲食店	317	286	△31	△10
その他	577	542	△35	△6
総数	2,284	1,997	△287	△13

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：北海道市町村勢要覧)

(2) 地域農業の動向

○ 耕地面積の推移

事業実施前と評価時点とを比較して、田については1%の減少、畑については5%の減少となっている。

【妹背牛町の農地の状況】

(単位：ha)

区分	事業実施前 H11	評価時点	増減	増減率 (%)
田	3,290	3,250	△40	△1
本地	3,120	3,100	△20	△1
畑	216	206	△10	△5
計	3,506	3,456	△50	△1

注) 評価時点の値はH23のデータ。

(出典：北海道農林水産統計年報)